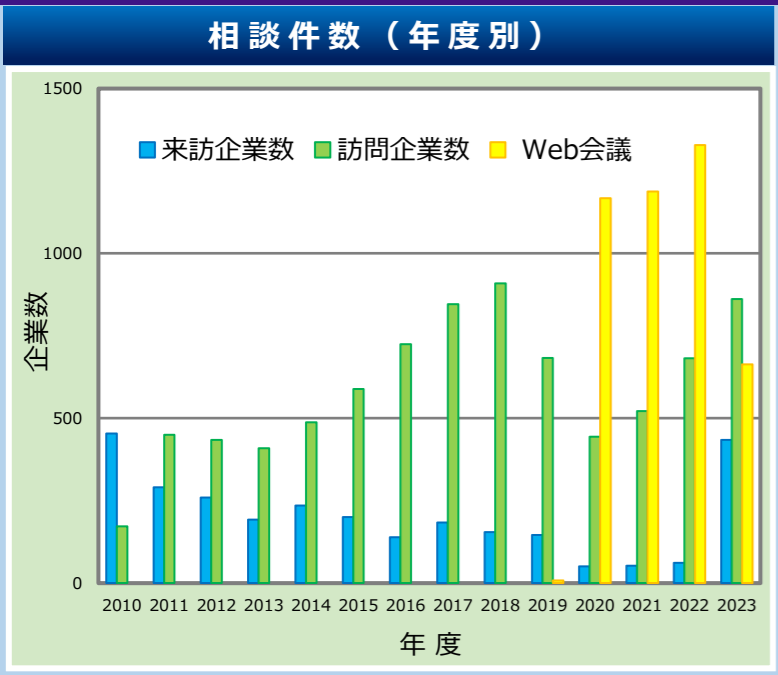




電気情報系約60研究室の総合力と相互連携による産学官連携を推進します。

IIS研究センターは、2010年2月に東北大学と仙台市が共同で設立した産学官連携組織です。民間企業出身のメンバーを中心に企業目線で能動的に対応し、産学官連携による研究開発や技術の実用化・事業化を支援しています。昨今は、地域のIT関連団体や多様なプレーヤーとの協業によるDXの推進に積極的に取り組んでいます。仙台市などの自治体を中心とするスマートシティ・水産・製造・物流・医療等々の現場と密に連携し、人手不足対応や生産性向上などの社会課題の解決、ひいては地域全体の持続的な経済成長の実現を目指して活動しています。



競争的資金獲得額

年度	金額	件数
2010~2022年度	34億2,870万円	88件
2023年度	4億2,720万円	10件
合計	38億5,590万円	98件

共同研究等

年度	件数
2019~2022年度	86件
2023年度	9件
合計	95件

地域企業へのアンケート結果

年度	回答数	新規事業売上高	新規雇用者数
2010~2022年度	284社	36億2,309万円	137名
2023年度	18社	2億1,455万円	6名
合計	302社	38億3,764万円	143名

IIS研究センターの支援により創出された新規事業の売上高、新規雇用者の人数について、アンケート形式で調査

みなさまの声 (メリット・要望)

N社D様

研究発表会や講演会など有意義な情報を展開いただけている事に加えて、特任教授とのディスカッションを通して、地域企業の課題解決に向けた、弊社技術の発展、取組み推進の良い機会となっている。今後、地域課題解決の実績を作れるよう、プロジェクトへの参画など連携した取組を継続していきたい。

Z社T様

東北大学と連携したい際、特にどの学部どの分野の、というのが明確に分からなかったり、横申でまたいだりする際に、その窓口としてご相談いただけたら、(時に大学の枠も超えて)適切な紹介をいただけたらと、大変助かっております。

M社H様

産学官連携の活動を行う際に、IIS研究センター様が当社と当社が得意な行政との間に立っていただき、翻訳・代弁をくださることで活動がスムーズに進めることができます。また、用途に応じて東北大学での実証を相談ができます。

H社H様

自治体からの補助金を紹介いただく事から始まり、実際の補助金をいただくまでサポートいただけただけで、それまで個人事業としてやってきた中で法人化へのキッカケとなりました、事業の取り組みへの本気度が上がったと思っています。

T社S様

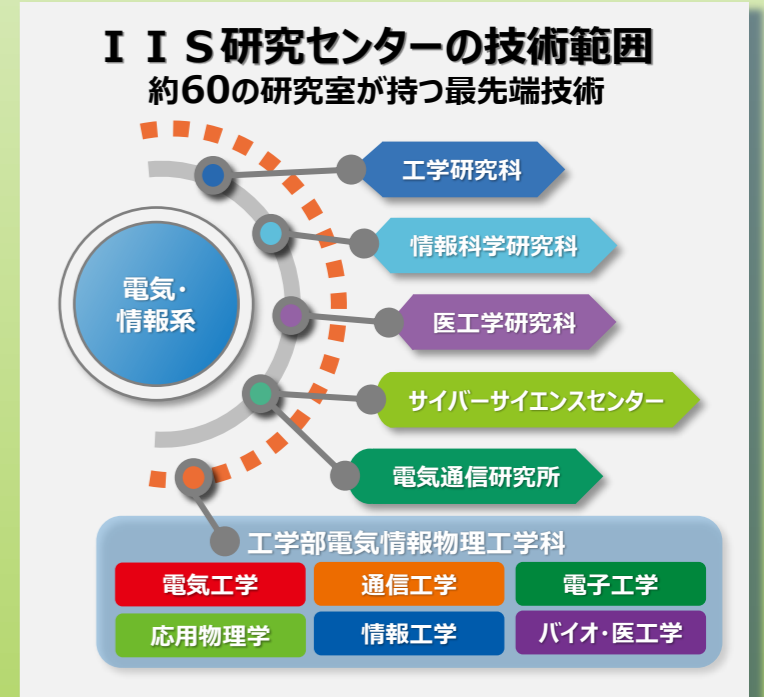
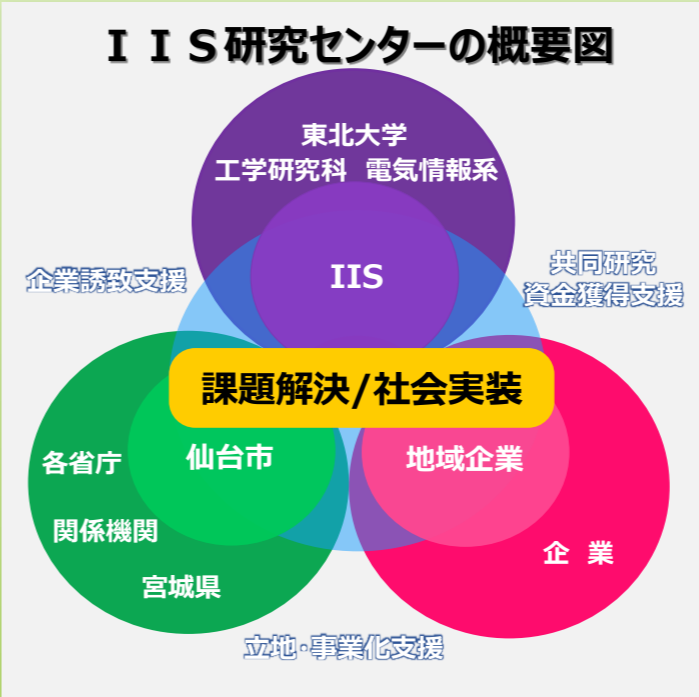
弊社に不足している技術、知識を補充していただくことで、弊社お客さまの具体的なニーズへの対応が可能になる。または、東北大学を紹介することで、お客様のニーズに応えることができる。

N社O様

企業が抱える課題が解決できれば、当社で提案するソリューション等の導入障壁も低くなるため。課題への回答として、知見が増える。

A社S様

地域地場企業との取組、共創活動のヒントとなる場。機器を売り切る活動でない企業-企業を結び付ける最適な場と考えます。



メンバー

センター長	副センター長	運営委員
工学研究科 教授 大町真一郎	工学研究科 教授 遠藤 哲郎	電気通信研究所 教授 石山 和志
情報科学研究科 教授 青木 孝文	電気通信研究所 教授 白井 正文	情報科学研究科 教授 周 暁
		電気通信研究所 教授 羽生 貴弘
		医工学研究科 教授 松浦 祐司

スタッフ

特任教授 館田あゆみ	特任教授 山田 健一	特任教授 田谷 紀彦	特任教授 鹿野 満	特任教授 阿部 勇介	特任教授 中川 弘靖	特任教授 酒井 聡	特任助教 川合 雄太
------------	------------	------------	-----------	------------	------------	-----------	------------

ご連絡ください

電話

Tel. 022-795-4869

メール

E-mail: info@iisrc.ece.i.tohoku.ac.jp

展示会 など

ディスカッション

東北大学

オンライン

御社・現場へ など

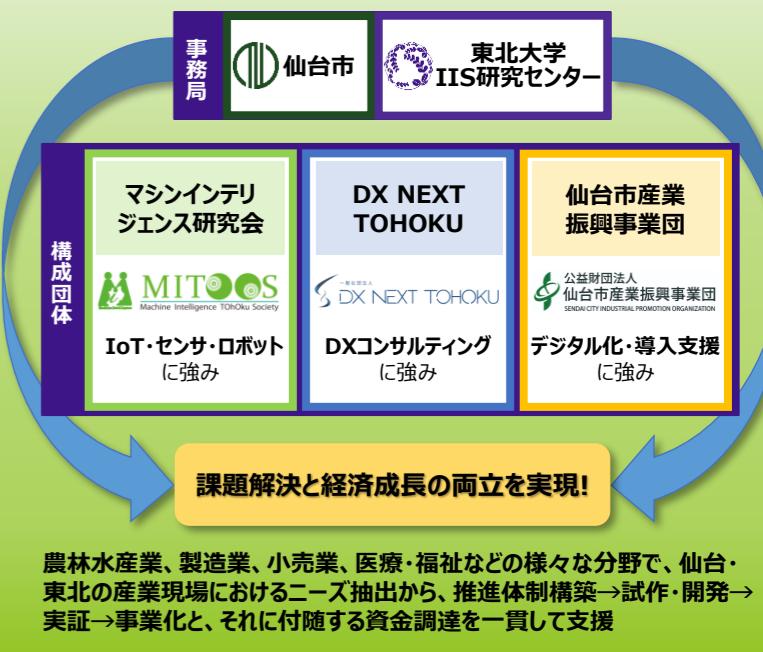
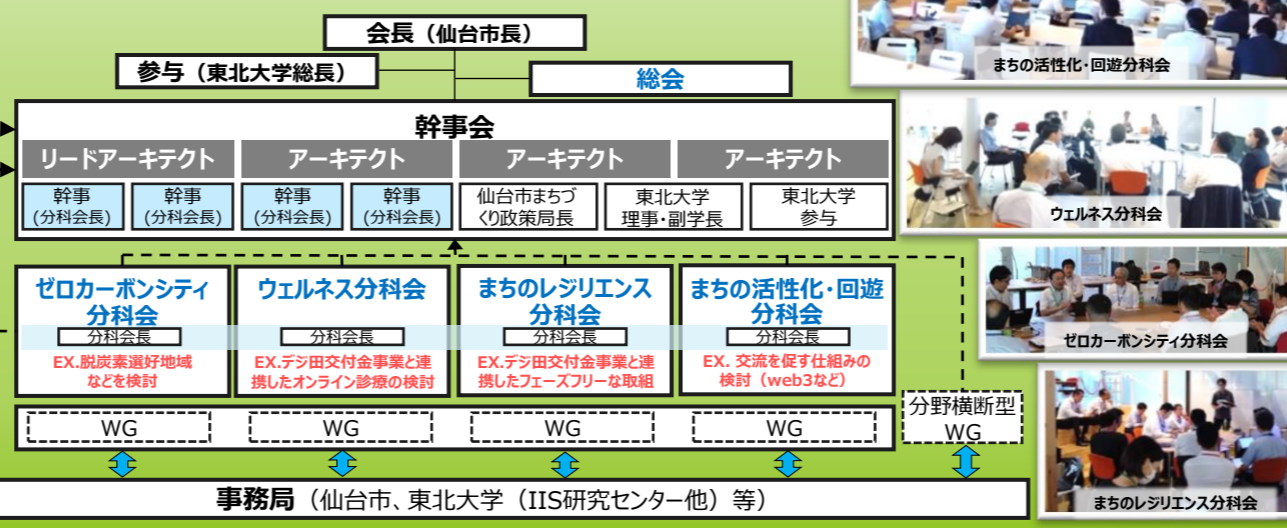
課題解決へ

- ・課題の抽出、整理
- ・大学シーズ紹介
- ・競争的資金獲得支援
- ・企業間マッチング
- ・製品化フォロー など

ホームページはこちらからどうぞ



2022年1月、約60社の事業者で、産学官共同のプロジェクト「仙台市×東北大学スーパーシティ構想推進協議会」設立。2023年10月「仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会」に改称。well-being向上に資する多様なサービス、市民・若者がチャレンジしやすい土壌を創造します。



産学官連携事例

気になっていること、困っていることはありませんか？分野は問いません。まずは、お気軽にご相談ください。

事例 オンライン診療のさらなる活用に向けた実証を仙台市で開始



実施内容

- ① 診療カー
・医療・通信機器を搭載した車に看護師が乗車し対象エリアへ訪問
・車両は軽トラックを採用し、低コストで実現
- ② 通信と医療機器
・車両にバイタル測定、聴診器、超音波診断装置、心電計等医療機器とオンライン会議システムを搭載し、無線環境で医師と接続

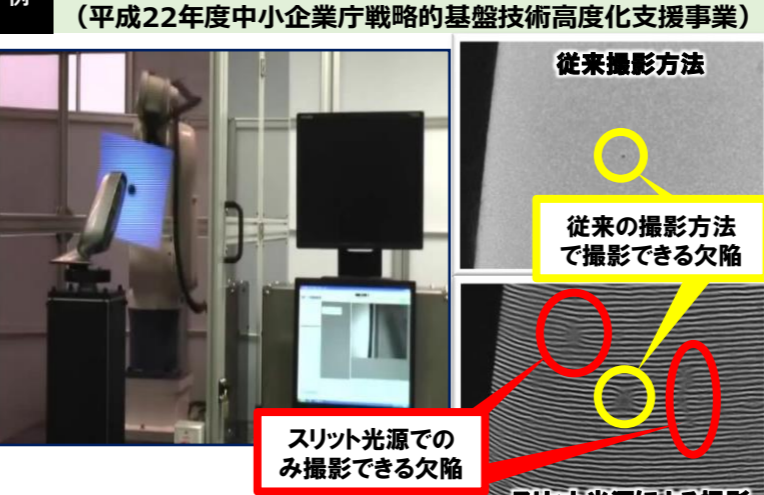
事例 COVID-19陽性者搬送車内の気流を可視化～ドライバーをウイルスから守る～



技術

- COVID-19陽性者搬送車のドライバーを仕切り壁でウイルスから守れるかを検証するために、車内の気流を可視化した。
- エアコンの外気導入を使用した与圧の効果で、後部座席(陽性者座席)からの気流の流れ込みを完全にシャットアウトしていることを確認。
- ドライバー側で窓開け換気をする、与圧効果を減少させ危険が増すことを確認。

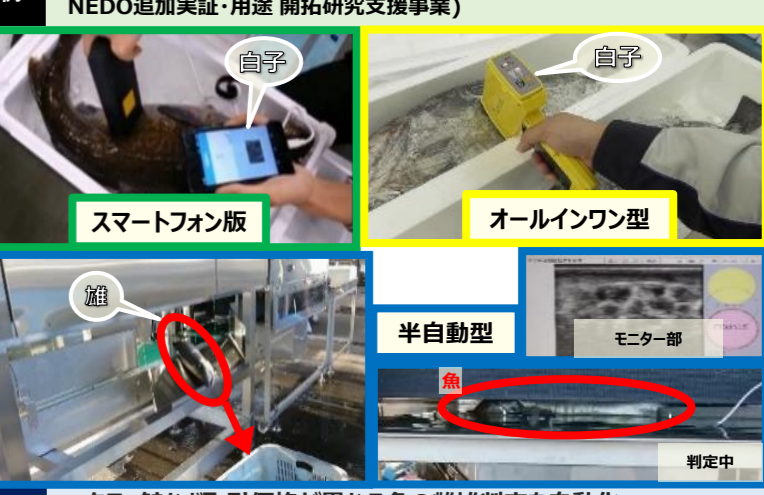
事例 外観検査用産業用ロボットを高度化する画像処理組込みソフトウェアの開発と事業化



対象技術

- 鏡面体表面上の緩やかな凹凸欠陥
- スリット光パターン照射による欠陥部の顕在化画像と高度画像処理の適用

事例 超音波エコー画像を用いた魚の雌雄判定自動化装置の開発



対象技術

- タラ、鮭など取引価格が異なる魚の雌雄判定を自動化
- 作業効率改善及び高付加価値化の提供
- 医療現場で培った超音波エコー診断技術
- エコー画像の画像処理及びAI技術の活用

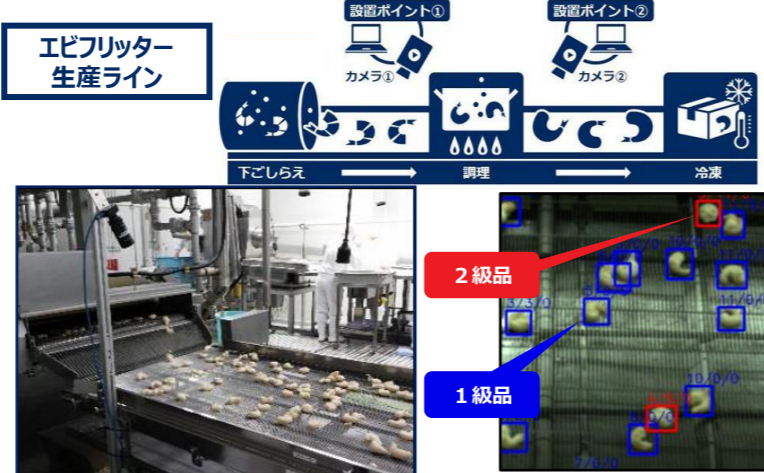
事例 魚・食肉等のX線残骨検査における自動検出装置の開発



対象技術

- 目視に頼る魚、食肉等の残骨検査の高速自動
- 作業負荷及び見落としなどの誤判定改善
- 照射角度の異なる複数X線画像を同時撮影
- 位相限定相関法などの画像処理技術の活用
- 微細な残骨・異物の立体的検出と判定

事例 AIによる水産加工での見える化



対象技術

- 水産加工における2級品判別や生産数量の把握
- 生産工程ごとにカメラを設置。画像をAI診断。生産個数を計測。
- 基準を満たさない製品画像をAIが大量に学習。特徴を導く。

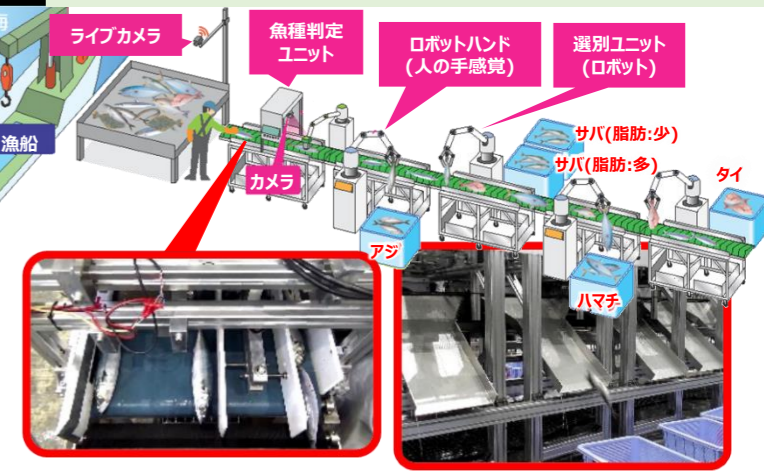
事例 AIを活用したサバ種の自動選別装置



対象技術

- 取引価格の異なるマサバ、ゴマサバ、ハイブリッド種の混在するサバ種の選別作業を高速自動化することで生産性と付加価値向上に貢献
- 画像処理・認識・パターン認識技術などとAI技術を活用することで高速自動選別装置を実現

事例 定置網等の魚種選別自動化



対象技術

- 定置網、缶詰工場などの魚種選別自動化による作業負荷軽減
- 人手不足などに対応
- バリューチェーンのIT化によるスマート化
- 画像AI判定、ロボット技術を応用